

2.

研究プロジェクト

2022 年度研究プロジェクト成果報告

(I) IGS 研究プロジェクト

(II) 外部資金研究プロジェクト

(III) 海外の助成金による研究プロジェクト

▶ 2022 年度研究プロジェクト成果報告

学際的、先駆的ジェンダー研究を目指して

ジェンダー研究所は 2015 年以来、グローバル女性リーダー育成研究機構の中核的な研究機関として先端的ジェンダー研究に取り組んできた。その前身であるジェンダー研究センターは、国際的なジェンダー研究のネットワークにおける東アジアにおける重要なハブとして活動し、21 世紀 COE プログラム『ジェンダー研究のフロンティア』（2003～2007 年度）をはじめとした研究プロジェクトを通じて広く注目を集めてきた。ジェンダー研究所はこの研究成果を引き継ぎつつ、伝統的な学問分野に縛られない学際的で先駆的なジェンダー研究を志している。ジェンダー研究所は、アジアにおけるジェンダー研究の拠点を目指し、国際的な共同研究と、その成果発信を積極的に進めており、蓄積された研究成果を広く社会へ還元していく。

先端的な研究を推進し、広い学術ネットワークを構築

ジェンダー研究所は、(I) IGS 研究プロジェクト、(II) 外部資金研究プロジェクト、(III) 海外の助成金によるプロジェクトにおいて、先端的な研究を推進している。とりわけ IGS 研究プロジェクトでは学内研究員、客員研究員、研究協力員の協力を得ながら広い学術ネットワークを構築し、その成果を意欲的に発信している。2022 年度もそれぞれの研究分野において研究会や公開セミナー、国際シンポジウムを実施したほか、成果出版物の刊行、国際共同研究や国際ネットワークの構築に取り組んだ。

今年度は 3 年ぶりに、アジア工科大学院大学 (AIT) における院生交流 (本報告書 62～63 頁参照) を対面で実施することができた。また、研究所メンバーらは論文執筆のほか、学会発表、外部講演などを活発に行った。個々のプロジェクトの研究概要については、本報告書 18～23 頁を参照していただきたい。

国際シンポジウム、IGS セミナー、研究会の開催と学術雑誌『ジェンダー研究』の刊行

各研究分野におけるシンポジウムやセミナーの開催と、『ジェンダー研究』の刊行により、成果発信に力を入れた。

今年も新型コロナウイルス感染症の影響により Zoom を利用したオンラインでのイベント実施が継続されたが、国際シンポジウムやセミナーのうち半数ほどはハイブリッドないし対面のみで実施した。オンラインでの企画には、普段お茶の水女子大学に足を運ぶことができないような幅広い層に参加してもらうことができるという利点があり、対面実施であればイベント終了後に非公式なディスカッションを継続できるという良さがある。今後も企画内容に応じて柔軟な開催方法をとりたいと考えている。

ジェンダー研究所の学術誌『ジェンダー研究』は第 25 号が 2022 年 7 月に刊行された。今号は、論文 4 本と特別寄稿 2 本から成る特集「ジェンダーの視点に基づく美術史研究の現在」のほか、投稿論文 5 本、書評 17 本という構成において発行された。今号の特集は、ジェンダー・フェミニズムの視座における美術史研究の領域で先駆的な研究を行ってきた天野知香本学教授・本誌編集委員の協力を得たものである。天野先生は前年度、同テーマでのシンポジウムを企画してくださり、次いで本号の特集の責任編集者になってくださった。ジェンダー研究所が長年、学内外で培ってきた学術ネットワークの一つの成果といえるだろう (本報告書 68～70 頁参照)。

2022 年度研究プロジェクト 分野別一覧

(I) IGS 研究プロジェクト
「東アジアにおけるジェンダーと政治」研究
「東アジアの越境的女性運動」研究
資本と身体ジェンダー分析
性・身体・再生産領域におけるジェンダー分析
グローバル・ガバナンスの変容と国家の再構築におけるジェンダー
(II) 外部資金研究プロジェクト
科学研究費基盤研究 B (課題番号: 18H00817) 女性の政治参画の障壁: 国会議員・県連への郵送・ヒアリング調査
科学研究費基盤研究 B (課題番号: 20H01468) 新興アジアにおける IT-BPO の国際分業の成立とジェンダー
科学研究費基盤研究 B (課題番号: 19H01578) 再生産領域の国際性別分業における日本の家事・ケア労働者の歴史的系譜と連帯
科学研究費基盤研究 C (課題番号: 19K12604) ジェンダークォータの政治学: 制度化と抵抗
科学研究費基盤研究 C (課題番号: 19K12603) 香港における移住女性の再生産労働力配置: 「グローバル・シティ」のジェンダー分析
科学研究費若手研究 B (課題番号: 17K13298) 「からゆきさん」にみる移動・性・権力の諸相
科研費国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 B) (課題番号: 21KK0033) 人民公社期の中国農村における生活秩序の変化とジェンダー
(III) 海外の助成金によるプロジェクト
ノルウェーリサーチカウンスル (287699) INTPART 「ジェンダー平等/ダイバーシティ: ノルウェー・日本共同研究」
ノルウェー高等教育国際連携推進機関 Diku (UTF-2020/10135) UTFORSK 「ノルウェーと日本におけるジェンダー平等およびダイバーシティ教育」

(I) IGS 研究プロジェクト

IGS 研究プロジェクト

「東アジアにおけるジェンダーと政治」研究

【研究担当】 申琪榮 (IGS 教授)

【共同研究者】 三浦まり (上智大学教授)、スティー爾若希 (元名古屋大学特任准教授)、
濱田真理 (Stand by Women 代表)、Soo-hyun Kwon (Sogang University) ほか

【概要】

東アジア地域はその経済発展の成果により国際的に注目されているが、政治の民主化の道筋は一樣ではない。本研究プロジェクトでは、日本と韓国、台湾の議員を対象としたアンケート調査による国際比較分析を行ない、東アジア地域において、女性の政治代表性を向上または妨げる要素は何か、政治制度におけるジェンダー多様性を実現させるにはどのようにしたらよいかを検討する。

IGS 研究プロジェクト

東アジアの越境的女性運動

【研究担当】 大橋史恵 (IGS 准教授)

【概要】

今日の女性運動は、路上や広場、公共交通機関、大学キャンパス、議場、ジャーナリズム、サイバー空間など、さまざまな場で実践され、課題解決に向けた国際的連帯とアクションを生み出している。本研究は東アジアにおけるそのような越境的女性運動の展開について考察するものである。具体的には (1) ILO「家事労働者のためのディーセント・ワークに関する条約」(第 189 号条約)に関連する労働運動、(2) 反軍事化をめぐる女性たちの運動、(3) 中国の女権主義者たちのトランスローカル/トランスナショナルな運動に目を向ける。

IGS 研究プロジェクト

資本と身体ジェンダー分析

【研究担当】 大橋史恵 (IGS 准教授)

【共同研究者】 足立真理子 (IGS 客員研究員)、板井広明 (IGS 研究協力員/専修大学准教授)

【概要】

本プロジェクト「資本と身体ジェンダー分析：資本機能の変化と『放逐』される人々」は、グローバル金融危機以降の資本の中核機能の変化を分析する。サスキア・サッセンの「放逐 expulsions」概念に着目して、従来の身体断片化や排除／包摂の概念では把握不能な「放逐」の「常態化」をジェンダーの視点から分析する。

(I) IGS 研究プロジェクト

IGS 研究プロジェクト

性・身体・再生産領域におけるジェンダー分析

【研究担当】 嶽本新奈 (IGS 特任講師)

【概要】

本研究プロジェクトは、開国以降に海外へ渡航し、渡航先で性売買をしていた女性たち（「からゆきさん」）の状況を再生産領域の観点から明らかにすることを目的としている。「からゆきさん」については性売買の問題のみに注目されがちだが、女性たちの再生産領域の問題と連関する「経験」として捉える必要があり、女性たちの人生を視野に入れて考察していきたい。

IGS 研究プロジェクト

グローバル・ガバナンスの変容と国家の再構築におけるジェンダー

【研究担当】 本山央子 (IGS 特任 RF)

【概要】

本研究プロジェクトは、グローバル政治経済構造が変容する中で、日本がいかに国際ジェンダー平等規範と交渉しつつ、内的ジェンダー秩序との矛盾を統制しながら「先進国」としての特権的地位や国内における権力の正統性を主張しようとしているかを、主に安全保障や外交政策へのジェンダー／フェミニズムの導入について検討しようとするものである。

(II) 外部資金研究プロジェクト

科学研究費基盤研究 B (課題番号: 18H00817)

女性の政治参画の障壁：国会議員・県連への郵送・ヒアリング調査

【研究担当】 申琪榮 (IGS 教授) [研究分担者]

【研究代表者】 三浦まり (上智大学教授)

【期間】 2018～2022 年度 (延長)

【概要】

本研究は「女性の政治参画に対する障壁」を国会議員および主要政党の都道府県支部への調査を通じて明らかにする。女性議員が少ない原因に関してはすでに国内外で研究の蓄積があり、複合的な要素によって女性候補者の数が抑制されていることが分かっている。中でも大きな障壁となっているのが、「政党の候補者リクルートメントと公認決定過程」である。本研究はそこに焦点をあて、郵送調査とインタビュー調査を組み合わせることで、なぜ女性候補が擁立されることが少ないのか、どこに障壁があるのかを特定する。これまで海外の研究で指摘されているジェンダー・ステレオタイプ、男性のホモ・ソーシャル・ネットワーク、成功体験の過大評価、潜在候補者への説得方法の男女差などについて、それらはどの程度の影響力を日本では持っているのか、政党差、地方差はどのように見られるのかを明らかにする。

科学研究費基盤研究 B (課題番号: 20H01468)

新興アジアにおける IT-BPO の国際分業の成立とジェンダー

【研究担当】 大橋史恵 (IGS 准教授) [研究分担者]、足立真理子 (IGS 客員研究員) [研究分担者]

【研究代表者】 堀芳枝 (早稲田大学教授)

【期間】 2020～2022 年度

【概要】

本共同研究は、IT-BPO の実証研究と国際比較によって、アジアについての新しい国際政治経済学を構築するものである。具体的には IT-BPO 産業の新国際分業の成立にともなう女性の労働力の再配置と、成長の果実としての中間層の成長と消費、都市化の進展、さらにはこうした経済社会の変容が、各国の民主主義に与える影響を国際比較から検討する。

科学研究費基盤研究 B (課題番号: 19H01578)

再生産領域の国際性別分業における日本の家事・ケア労働者の歴史的系譜と連帯

【研究担当】 大橋史恵 (IGS 准教授) [研究分担者]、平野恵子 (IGS 研究協力員/横浜国立大学准教授) [研究分担者]

【研究代表者】 定松文 (恵泉女学園大学教授)

【期間】 2019～2022 年度 (延長)

【概要】

本研究は、再生産労働の国際分業が進展する日本において、次の二点に焦点を当て実証的に検討する。第一に歴史的視点からの雇用主―派遣企業―労働者の非対称的な関係、第二に家事・ケア労働者が有する限定的社会関係資本から選択する行為や集合行為によって、労働者を取り巻く制度の変容。

(II) 外部資金研究プロジェクト

科学研究費基盤研究 C (課題番号: 19K12604)

ジェンダークォータの政治学: 制度化と抵抗

【研究代表者】 申琪榮 (IGS 教授)

【期間】 2019～2022 年度 (延長)

【概要】

議会のジェンダー公平な代表性を確保するために導入されたジェンダー・クォータ (女性候補者割当制) の効果とその制度が女性の政治的代表性に及ぼす影響を分析する。事例として取り上げる韓国は、2000 年代前半から政党の候補者の一定割合を女性に当てるクォータ制度を導入した。しかし、クォータが実施されて 15 年が経た現在も女性議員は 20% に至らず、現行クォータ制度に疑問が呈されている。先行研究では、クォータ制度が効果を出せない理由の一つに、議会の男性優位性が脅かされることへの抵抗、すなわち、クォータ・バックラッシュが指摘されている。本研究は、過去 15 年間の政党別選挙データ及び政党関係者や女性議員への聞き取り調査を通じて、クォータ制度の実施状況、クォータで当選した女性議員の政治的キャリアパス及び政党の公認過程を分析し、クォータ導入後に現れたクォータ・バックラッシュの諸相を明らかにすることで、韓国でクォータ制度が十分な効果を発揮できない原因を解明するとともに国際比較のための理論構築を目指す。

科学研究費基盤研究 C (課題番号: 19K12603)

香港における移住女性の再生産労働力配置: 「グローバル・シティ」のジェンダー分析

【研究代表者】 大橋史恵 (IGS 准教授)

【期間】 2019～2023 年度 (延長)

【概要】

本研究は、香港社会において異なる移住女性による再生産労働力がどのように配置されてきたかを、中国人家事労働者と外国籍家事労働者およびその雇用主を対象としたオーラル・ヒストリーの聞き取りから明らかにするものである。香港が輸出志向工業化路線から東アジアの金融・貿易サービスの中枢を成す「グローバル・シティ」へと転換した時期は、外国籍の家事労働者の受け入れが拡大していくとともに、主に広東省に出自をもつ中国人女性の労働力配置に変化が生じた時期と重なる。1980 年代末から今日までの香港の社会経済構造の変動において、トランスナショナルにあるいはトランスローカルに移動して家事労働者になった女性たちはどのように受け入れられたのか。異なるケアの担い手たち (移住女性) と受け手たち (雇用主) の「ケアの記憶」を通じて香港の再生産領域の変化をとらえたい。

(II) 外部資金研究プロジェクト

科学研究費若手研究 (B) (課題番号: 17K13298)

「からゆきさん」にみる移動・性・権力の諸相

【研究代表者】 嶽本新奈 (IGS 特任講師)

【期間】 2017～2022 年度

【概要】

本研究は、開国以降に海外へ渡航し、渡航先で性売買をしていた女性たち（「からゆきさん」）の状況を歴史的に明らかにするために 2 つのネットワークの解明を目的とする。ネットワークの 1 つは渡航補助者組織のネットワークであり、もう 1 つは女性たちの関係性のネットワークである。女性の移動には様々な役割を担った人々が関わっていたが、その実態は未だ不明な部分が多い。また移動によって女性たちが元々属していた関係性と移動先で構築しなければならなかったネットワークについても検討していきたい。

科研費国際共同研究加速基金（国際共同研究強化 B）（課題番号: 21KK0033）

人民公社期の中国農村における生活秩序の変化とジェンダー

【研究担当】 大橋史恵 (IGS 准教授) [研究分担者]

【研究代表者】 堀口正 (大阪公立大学教授)

【期間】 2021～2024 年度

【概要】

本研究は科研費・国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））を受け、2021 年 12 月から 2025 年 3 月にかけて実施される国際共同研究のプロジェクトである。人民公社期（1950 年代～70 年代）の中国農村における生活秩序の変化とジェンダーについて、資源配分のあり方に着目して、実証的に検討することを目的とする。

中国農村では、1949 年の「暫定憲法」や 50 年の「婚姻法」「土地改革法」の公布、また人民公社制度の展開により、封建的な慣習の廃絶が進められるとともに男女平等の制度的基盤が構築されていった。ところが、生産労働への参加の程度の男女差（労働点数に対する女性差別の存在も）、耕地や水利施設などの共有資源へのアクセスに女性と男性とでどの程度違いがあったのかなど、不明な点が多い。さらに公共食堂や託児所の現実的な利用状況、家事やケアなど再生産労働の性別分業についても、研究の空白部分になっている。

以上のことから、①各地農村における人民公社期の資源配分のあり方を解明すること、②世帯内外における生産・再生産労働の労働力配置の実態を考察し、「村」や「家」の権力関係や規範にどのような揺らぎがあったのかを解明すること、③さらに①②と関係する問題として、国家レベルの指針や計画生育が基層社会における生活秩序に与えた影響を解明する。

(Ⅲ) 海外の助成金による研究プロジェクト

ノルウェーリサーチカウンシル (287699)

INTPART 「ジェンダー平等／ダイバーシティ：ノルウェー・日本共同研究」

【研究担当】

石井クンツ昌子（お茶の水女子大学理事・副学長：本学側代表）
戸谷陽子（IGS 所長／基幹研究院人文科学系教授）
小玉亮子（IGS 研究員／基幹研究院人間科学系教授）
吉原公美（リサーチ・アドミニストレーター：事務局）
松田デレク（国際教育センター講師／群馬大学講師）
仙波由加里（IGS 研究協力員）
佐野潤子（IGS 研究協力員／慶應義塾大学ファイナンシャル・ジェロントロジー研究センター特任講師）

【期間】2019～2022 年度

【概要】

ジェンダー平等とダイバーシティに関する、NTNU ジェンダー研究センターとの共同プロジェクト。ノルウェーと日本のジェンダー平等およびダイバーシティの現状状況について理解を深め、社会・文化・歴史・政治的背景を含めて分析・考察する国際比較研究し、類似と相違についての理解を深めることを通じて、新たな知見を得ることを目指す。担当研究者が、それぞれの専門領域に沿ってノルウェーの研究者と組んで研究を進める（本報告書 56 頁参照）。

ノルウェー高等教育国際連携推進機関 Diku (UTF-2020/10135)

UTFORSK 「ノルウェーと日本におけるジェンダー平等およびダイバーシティ教育」

【研究担当】

小林誠（グローバルリーダーシップ研究所長）[本学側代表]
戸谷陽子（IGS 所長）[本学側プロジェクト・コーディネーター]
石井クンツ昌子（理事・副学長）
松田デレク（国際教育センター講師／群馬大学講師）
岡村利恵（グローバルリーダーシップ研究所特任講師）
吉原公美（リサーチ・アドミニストレーター）
ノルウェー科学技術大学（NTNU）ジェンダー研究センター研究者

【期間】2021～2025 年度

【概要】

ジェンダーおよびダイバーシティ研究教育の質を高めるための新しい教育戦略を構築するプロジェクト。学生、若手研究者、教員が、パートナー大学での共同セミナーや共同指導を経験するなど、質が高く活力に満ちた、国際的な学びの環境を提供する。研究発表や産学連携への参与など若手研究者への機会提供や、論文の共同執筆など研究者同士の将来的なパートナーシップ発展につながる活動も行う。また、SDGs のジェンダー・ダイバーシティ関連の目標達成に資する成果を目指す（本報告書 56 頁参照）。